

主 題：神とともに生きる
聖書箇所：詩篇85篇1-13節

キンデ牧師＝アメリカ・ミシガン州、グランドラピッツにあるグレイス・バイブル教会の牧師、グレイス・バイブル教会は長年に亘って浜寺聖書教会のことを祈り支援してくださっている。今回、夫人を伴って来日され、東京を経由して2日に大阪に来られた。この後、沖縄、フィリピンへと旅を続けられる予定。

グランドラピッツのグレイス・バイブル教会から皆様にご挨拶を申し上げます。教会のメンバーは喜んで私を皆さんのところに遣わしてくれました。皆さんや近藤先生のような友人をもっていることを本当に感謝しています。

今朝のテキストは詩篇85篇です。この詩篇は私たちに二つのことを明らかにしています。一つは「旅」です。もう一つは「園」または「収穫」を示します。この二つは最後のところで一つになっています。10-13節で、生活における実りの豊かさを明らかにしてくれます。13節には「…主の足跡を道とします。」とあります。ですから、確かに、人生は「旅」です。人生にはいろいろな旅が含まれます。今、私と妻は長い旅に出ています。子どもたちは私たちがいないことを喜んでいるでしょう。長女は22歳で11歳の子が一番若いのですが、彼らは独立することを喜びとしています。妻は普通私のように旅に出ることはありません。今回のような長い旅はもしかすると私たちにストレスをもたらすかもしれません。ずっといっしょにいるからです…。もし、私がひとりなら車で迷子になるかもしれません。緊張しますが私には責任があります。

詩篇を見ていきましょう。「私はもう一度再生される、よみがえらされる」という内容です。先に言ったように、この箇所には「園」のことが記されています。私の庭には三本のリンゴの木があります。この6~7年、ほとんど実がなりません。でも、今年は花が咲きました。そして、実を結び始めました。そろそろ収穫のときと思って木を見たら実はすべて無くなっていました。はしごはどこにもありません。実は、盗んだのは鳥やリスだったのです。私の怠け心が問題だったのです。そのために収穫を逃してしまったのです。来年、実がなるまで待たなければなりません。これは人生のようなもので、「そのとき」があるのです。私たちが期待しているほどの実を結ばないときもあります。そして、いろいろな状況が実を結ばない結果をもたらすこともあります。自分の心が実を結ばない原因となっていることもあります。このような問題にこの詩篇のみことばは答えをくれるのです。

この詩篇は聖歌隊のために書かれています。「コラの子たち」によって記されたと書かれています。もともと彼らは幕屋や神殿において人々の礼拝を助けるという務めを受けていました。しかし、彼らは実生活において問題があったのです。一つの歴史ですが、コラの子たちの先祖は反逆の罪を犯しました。そのことは民数記16章に書かれています。つまり、彼らはすべての責任を持ちたいと願ってモーセに反逆したのです。神が彼らのうちに働かれます。その結果、「:31 モーセがこれらのことばをみな言い終わるや、彼らの下の地面が割れた。:32 地はその口をあけて、彼らとその家族、またコラに属するすべての者と、すべての持ち物とをのみこんだ。」と、このような出来事が起こりました。このことはその子孫たちがすべて神に用いられないということではありませんでした。

また、彼らには国家的な問題もあったのです。なぜ、この歌が書かれたのかその目的は分かりません。恐らく、考えられることは、これは「バビロニアの捕囚」が原因でしょう。イスラエルはバビロニアに捕囚として引かれていきます。神の民は反逆の罪に陥ってしまうのです。真の神から離れ地上の偶像に仕えるようになったのです。繁栄をもたらす、健康をもたらすと約束した偶像たちです。この世の歩みに従っていくのです。そして、神が彼らの中に介入し彼らを責められます。そして、彼らが神に立ち返るようにと働かれるのです。

この詩篇は四つに分けることができます。最初の1-3節は「回想」として歴史を思い出すことです。4-7節は「祈り、願い」が書かれています。8-9節はもう一度この詩篇の著者に「確信」をもたらします。そして、10-13節は「神の約束」が記されています。

A. 回想 1-3節

「主の贖いを思い起こすように」、これが1-3節に記されていることです。神の民に困難が訪れます。そのとき著者は神が為さったすばらしいことを思い起こすのです。

1. ご好意 1節

【主】よ。あなたは御国に恵みを施し、ヤコブの繁栄を元どおりにされました。」と書かれています。神はあ

なたにご好意を与えられました。神に受け入れられる好意をあなたに与えられたのです。

関連のみことば＝

Ⅰコリント7：23：「あなたがたは、代価をもって買われたのです。人間の奴隷となつてはいけません。」

ローマ8：19－25：「19 被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです。20 それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。22 私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。23 そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。24 私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望むでしょう。25 もしまだ見ていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます。」

2. 赦し 2節

「あなたは、御民の咎を赦し、彼らのすべての罪を、おおわれました。セラ」とあります。あなたの罪をお赦しになった。あなたの罪を覆われたのです。最初の人類の罪はアダムとエバの罪です。神は彼らのところにやって来られ、彼らを肉体的に覆われました。彼らの恥を覆われたのです。そして、この「覆う」というのはまさに「赦し」の象徴だったのです。彼らは贖われたのです。そのためには「いけにえ」が必要でした。

関連のみことば＝

ローマ3：23－25：「23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、24 ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。25 神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現すためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。」

Ⅰヨハネ1：7：「敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。」

ガラテヤ3：27：「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。」

イザヤ61：10：「わたしは【主】によって大いに楽しみ、わたしのたましいも、わたしの神によって喜ぶ。主がわたしに、救いの衣を着せ、正義の外套をまとわせ、花婿のように栄冠をかぶらせ、花嫁のように宝玉で飾ってくださいから。」

黙示録19：8：「花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。」

3. 怒りを避ける 3節

「あなたは、激しい怒りをことごとく取り去り、燃える御怒りを、押しとどめられました。」と。どうして神はお怒りになるのでしょうか？神は反逆の罪に対して怒りを示されました。なぜなら、神はすべての創造主であられるから、神はあなたを造られたからです。もし、あなたが神を認めないならそれはあなたの神に対する反逆です。それは神への不忠実です。でも、神はその怒りをあなたから取り除かれたのです。

関連のみことば＝

出エジプト24：17：「【主】の栄光は、イスラエル人の目には、山の頂で燃え上がる火のように見えた。」

エペソ2：3－5：「3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあつて、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——」

ローマ5：8－9：「8 しかし私たちがまだ罪人であつたとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。」

ピリピ4：6：「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」

コロサイ2：7：「キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおりの信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。」

コロサイ3：15－17：「15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。16 キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。17 あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。」

黙示録7：12：「言った。「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの神にあるように。アーメン。」

詩篇を学ぶときに必要なことは、新約の時代に生きている私たちにとってこの詩篇のみことばをどのように適用するか？ということです。私たちはイスラエルではありません。私たちはイスラエルに土地を持っているわけでもありません。でも、この箇所は私たちにヒントを与えてくれます。特に、この後半の10節には「恵みとまこととは、互いに出会い、義と平和とは、互いに口づけしています。」とあり、「恵み」「まこと」「義」「平和」ということばが記されています。これが神が望んでおられる、捜しておられる「実」なのです。私はリンゴの木のことではなく「霊的な実」のことを話しています。詩篇の中に私たちは自分自身の霊的な生活に必要なものを見出すのです。

神はどのようにして私たちにご自身のご好意を示してくださったのか？どのように私たちは罪の赦しを知ることが出来るのか？どのように私たちは神が私たちに対してもう怒っておられないということを知ることが出来るのでしょうか？それはすべて「イエス・キリストによって」です。Iコリント6：19-20がそのことを教えてくれます。「19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」と。

神はご自身のご好意のしるしとしてあなたに赦しを与えてくださった。神はあなたを神ご自身のために代価を払って購入されたということです。「赦し」、罪をあなたから遠ざけるということです。また同時に、罪の結果をあなたから引き離すということです。神はあなたの罪を覆われた。まさに、「東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。」(詩篇103：12)のです。

神の怒りが除かれました。その怒りのすべてはイエス・キリストのあの十字架の贖いに焦点が当てられています。だから、私たちのその神に対する応答は「感謝」です。そのように著者はこの詩篇を記し始めているのです。著者は大変な問題を抱えていました。先ほども話したように、彼らがどのような困難に直面していたかは定かではありません。でも、著書は中でも先ず感謝から始めるのです。私たちも同じように感謝するべきです。ヘブル12：28-29をご覧ください。「28 こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。29 私たちの神は焼き尽くす火です。」

私たちはどのようにしてこの感謝において成長できるのでしょうか？私たちがすることは問題をもって神のところに出て行くことです。それは度々です。でも、詩篇の著者は全く違ったアプローチをしています。神の栄光、神のみわざを覚え、神のすばらしさを覚えるのです。過去にされた神のみわざを思い出すのです。神とともに豊かな交わりの中にいたときのことです。

カウンセリングにおいて問題にぶつかったときに私にはそのことを親しく話せる牧師の友人がいます。もちろん、私たちはEメールで連絡を取り合いますが、彼が送って来るメールの最後には必ず「多くのことを神に感謝できる」と記しています。また、彼はその生活の中にある習慣があります。小さな紙をもってそこに彼が神からいただいた祝福や神が為さった偉大なことを記すのです。そして、それをガラスの器に入れて貯めていきます。それを見るたびに、神がいかに自分にすばらしいことを為さったかを思い起こすのです。その器がいっぱいになったとき、彼はそれを開いて神が与えてくださった恵みの一つ一つを数え直します。実際に、その感謝を書いた紙が増えたり減ったりする様子を見ることは、自分がどのように神に感謝しているかを学ぶときでもあるのです。

このことを話しながら思い出したのですが、昨日、私たちは京都で神社などを回ったのですが、人々はおみくじを引きます。「吉」が出るとその紙を枝に括り付けます。もちろん、私たちは偶像礼拝をしません。神は私たちにすばらしい祝福をくださった。私たちはそれにしっかりしがみつきます。それをしっかり数え続けて行くことです。それをすべて覚え続けることです。私たちは皆さんの日本食をおいしくいただいています。そして、皆さんが食べ物に対して持つておられる思いに私たちは感動します。たとえば、お茶にしても、茶碗をゲストの前に正面を向けて差し出し、ゲストはそれを回していただきます。それに対して感謝をします。どのようにすき焼きを作るのか？食べることも準備することもすべて一つの行為です。

まさに、神は私たちクリスチャンに食事を与えてくださっています。イエスはパンと杯を手にして、「取って食べなさい。これはわたしのからだです。…みな、この杯から飲みなさい。これは、わたしの契約の血です。」(マタイ26：26-27)、「わたしを覚えてこれを行いなさい」(ルカ22：19)と言われました。私たちがパンを食べ杯から飲むときに、イエスが帰って来られるそのときまで、彼の死を宣べ伝え続けるのです。パウロはそのことを「感謝の杯」と呼びました。私たちは感謝をする者です。神のご好意を知っている者たちです。罪の赦しを知っている者です。神のその厳しい怒りが除かれたことを知っている者たちです。怒りが除かれただけでなく、私たちは今その神と交わる者へと変えられたのです。私たちは神とともに時間を費やすことができるのです。

ですから、まず、この1-3節に記されている「回想」は、神が為さった私たちへのご好意を覚えるこ

とです。

B. 要望 4-7節

二番目に進みます。4-7節「:4 われらの救いの神よ。どうか、私たちを生き返らせ、私たちに対する御怒りをやめてください。:5 あなたは、いつまでも、私たちに対して怒っておられるのですか。代々に至るまで、あなたの御怒りを引き延ばされるのですか。:6 あなたは、私たちを再び生かされないのですか。あなたの民があなたによって喜ぶために。:7 【主】よ。私たちに、あなたの恵みを示し、あなたの救いを私たちに与えてください。」と、ここでは著者は「願い」を神の前に持ち出します。著者は神の前に赦しを求めます。4節には「…どうか、私たちを生き返らせ、」と、そして、7節には「…あなたの救いを私たちに与えてください。」と締めくくっています。そして、この間には数々の質問があります。その質問は「なぜ、私たちに対してまだ怒っておられるのか？」です。もちろん、それは罪が原因となっています。この「怒り」を見ると、神はイスラエルの民を愛さないのか？ということではありません。

これはまさに、親の言うことに従わない子どもに対する親の気持ちです。このような怒りは「愛の表われ」ということができます。なぜなら、親は子どもたちにより良いものを求めるからです。親は子どもたちのことを心に掛けて世話をしようとし、子どもたちを正しい方向に導いていこうとするからです。それは子どもたちにとって最善を子どもたちが為すためです。まさに、これは父なる神が私たちに対して行っておられることです。私たちはときに子どもたちのように生きてしまいます。自分たちのやりたいことを選択してしまいます。ここにあるように「もう一度私たちを生き返らせ、…救いを与えて…」という意味は「方向を変えてください、向きを変えてください。」ということです。子どもたちは正しい方向へと変えていただく必要があります。私たちも同じように変わる必要があるのです。

皆さん、ヘブル語で「シュー」と言ってみてください。これは「方向を変える」という意味です。ですから、「悔い改め」と同じ意味です。Uターンするようです。間違った方向に進んでいるのを180度回転して正しい方向に向くということです。この方向転換は「いのちに対して、救いに対して方向を変える」ということです。私たちを再び生き返らせるのです。

関連のみことば＝

ダニエル9：18：「私の神よ。耳を傾けて聞いてください。目を開いて私たちの荒れずさんださまと、あなたの御名がつけられている町をご覧ください。私たちが御前に伏して願いをささげるのは、私たちの正しい行いによるのではなく、あなたの大きいなるあわれみによるのです。」

I ペテロ4：17：「なぜなら、さばきが神の家から始まる時が来ているからです。さばきが、まず私たちから始まるのだとしたら、神の福音に従わない人たちの終わりは、どうなることでしょうか。」

II コリント7：10：「神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。」

C. 待望 8-9節

三つ目のセクションに行きましょう。神に私たちを新たにしてくださいと祈ったときに、私たちはどうするでしょうか？これは私たちの個人の歩みを教えてくれます。個人だけでなく「教会」という集まりも見ることができます。私たちは群れとして神の前に「私たちを変えてください」と神に助けを求め、個人としても神のみわざが為されることを待ち望むのです。同時に、集合体としても神が働いてくださることを待ち望みます。ですから、この箇所は非常に個人的なものです。8節の初めには「私は、…」と単数形が使われています。「私は、【主】であられる神の仰せを聞きたい。…」と言っています。「主は、御民と聖徒たちとに平和を告げ、彼らを再び愚かさには戻されない。」と続きます。

これはあなたにとって非常に大切なことです。私たちが為すべきことは「神のときを待つ」ことです。「静まってわたしが神であることを知りなさい。」と詩篇の別の箇所に記されています。この箇所では「私は神の仰せを聞く」と書かれています。9節には「まことに御救いは主を恐れる者たちに近い。」とあります。私たちは神を待つことが必要です。私たちは神にあって休息をもつことが必要です。神が言われているみことばをしっかりと見ることです。

そして、その神のメッセージには「平和」が綴られています。個人的な平和、内面的な平和だけではありません。「創造主との平和」のことです。反逆によって傷つけられた神との平和です。神の怒りを全く恐れることのない平和です。私たちは何一つとして神を喜ばせることはできません。それはイエス・キリストが為してくださったみわざです。エペソ2：14には「キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、」とあります。イエス・キリストの血潮によって私たちは神との平和をもっています。私たちの行いによるものではありません。イエス・キリストのみわざによるのみです。この著者はみことばを通してこのような「平和」を私たちは知ることができると言います。

9節にはまた「それは、栄光が私たちの国にとどまるためです。」と書かれています。でも、私たちはイスラエルではありません。クリスチャンとしても地理的なものをもっていません。私たちは今この浜寺に

いるのです。パウロが言うことは「私たちはこの浜寺にいるキリストにある聖徒たちだ」ということです。ですから、私たちの本当の居場所はキリストのうちです。なぜなら、この世界は私たちの住まいではないからです。神の栄光がこの地に満ちる、そのときが来るのです。

新約聖書は私たちに「休息と平安」を約束します。休息はこの地上のどこか地理的な場所によって与えられるものではありません。旧約の時代に、土地において休息を得るということはまさに、イエス・キリストによって与えられる休息を意味するのです。ヘブル4：1を見てください。「こういうわけで、神の安息に入るための約束はまだ残っているのですから、あなたがたのうちのひとりでも、万が一にもこれに入れられないようなことのないように、私たちは恐れる心を持つてはなりませんか。」、9節には「したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残っているのです。」とあります。神の安息に入った者は、神がご自分のわざを終えて休まれたように、自分のわざを終えて休んだはずです。10-11節「:10 神の安息に入った者ならば、神がご自分のわざを終えて休まれたように、自分のわざを終えて休んだはずです。:11 ですから、私たちは、この安息に入るよう力を尽くして努め、あの不従順の例にならって落後する者が、ひとりもないようにしようではありませんか。」と、私たちはキリストが備えてくださった安息に入るように努めるのです。そのときに私たちは神の栄光を知ることになるのです。

みことばからその例えを話したいと思います。マリヤとマルタのことですが、福音書はその二つの出来事を教えています。イエスはマリヤとマルタの家を訪問されました。そして、マルタはイエスのために一生懸命食事の準備をします。マリヤはイエスの足元に座っていました。マルタは自分ばかりが仕事をしていることに怒りを覚えます。「ところが、マルタは、いろいろもてなしのために気が落ち着かず、みもとに来て言った。「主よ。妹が私だけにおもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのでしょうか。私の手伝いをするように、妹におっしゃってください。」(ルカ10：40)とこのようにイエスに要求するのです。そこでイエスはマルタにこのように言われました。「:41 …「マルタ、マルタ。あなたは、いろいろなことを心配して、気を使っています。:42 しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです。マリヤはその良いほうを選んだのです。彼女からそれを取り上げてはいけません。」と。もてなすことが悪いと言っているわけではありません。マルタはイエスに仕えるということを失ってしまったのです。

また、別のことが記されています。これはマリヤとマルタの兄弟ラザロが亡くなったときのことで、イエスは取返遅れて彼らのところを訪問します。そして、墓にやって来ます。そこにマルタがいました。「マルタはイエスに向かって言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」(ヨハネ11：21)、そして、イエスはマルタと神学について話を始めていきます。イエスはマルタに「あなたはわたしがよみがえりでありいのちであることを知らないのですか？」と問います。マルタは「はい。主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストである、と信じております。」(11：27)と答えます。そして、イエスはマリヤと話します。マルタがマリヤを連れて来るのです。マリヤはずっとラザロの死を嘆き悲しんでいました。「:32 マリヤは、イエスのおられた所に来て、お目にかかると、その足もとにひれ伏して言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」とマルタと同じことを言います。では、イエスはマリヤに対してどのように応答なさったでしょう？どなたか憶えておられる方はいますか？11：35「イエスは涙を流された。」です。

私たちは正しい答えを語ることはできます。私たちはイエスに関する神学も終末論も正しく知ることができます。もちろん、それは正しくあるべきです。でも、正しいことを知っているからと言って、キリストにある本当の安息を平安を得ているかということ、それはまた別のことです。私たちは神のあわれみを経験することが必要です。マリヤはキリストにあって休息を得ていました。マリヤのことばはイエスを責めることばではありませんでした。イエスを信頼したことばでした。ですから、イエスは私たちの安息であり、私たちの平安であるということです。イエスの死によって神の怒りを除いてくださったのです。

関連のみことば＝

イザヤ57：18-21：「:18 わたしは彼の道を見たが、彼をいやそう。わたしは彼を導き、彼と、その悲しむ者たちとに、慰めを報いよう。:19 わたしはくちびるの実を創造した者。平安あれ。遠くの者にも近くの者にも平安あれ。わたしは彼をいやそう」と【主】は仰せられる。:20 しかし悪者どもは、荒れ狂う海のような。静まることができず、水が海草と泥を吐き出すからである。:21 「悪者どもには平安がない」と私の神は仰せられる。」

箴言26：11：「犬が自分の吐いた物に帰って来るように、愚かな者は自分の愚かさをくり返す。」

1ペテロ2：21-22：「:21 あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようと、あなたがたに模範を残されました。:22 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。」

マタイ11：28-29：「:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。」

ルカ 9 : 26 : 「もしだれでも、わたしとわたしのことばとを恥と思うなら、人の子も、自分と父と聖なる御使いとの栄光を帯びて来るときには、そのような人のことを恥とします。」

ヨハネ 17 : 24 : 「父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。」

マタイ 25 : 31-32 : 「:31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。:32 そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、」

ハバクク 2 : 1、4、14 : 「:1 私は、見張り所に立ち、とりでにしかと立って見張り、主が私に何を語り、私の訴えに何と答えるかを見よう。」「:4 見よ。彼の心はうめぼれていて、まっすぐでない。しかし、正しい人はその信仰によって生きる。」「:14 まことに、水が海をおおうように、地は、【主】の栄光を知ることによって満たされる。」

D. 祝福 10-13節

そして、最後の「祝福」に移っていきます。「新生」の祝福です。10-13節「:10 恵みとまこととは、互いに出会い、義と平和とは、互いに口づけしています。:11 まことは地から生えいで、義は天から見おろしています。:12 まことに、【主】は、良いものを下さるので、私たちの国は、その産物を生じます。:13 義は、主の御前に先立って行き、主の足跡を道とします。」、土地における豊作を言っているのではありません。神の属性がすべて一つになることを言っているのです。動かされることなく変わることはない神の愛のことです。

「義」と「平和」という二つの属性が書かれています。この二つが非常に親密な関係にあることを言っています。「義と平和とは、互いに口づけしています。」と、あたかも結婚したかのような表現です。

そして、「義の収穫」が記されています。これこそがまさにイエスが「祈りなさい」と言われた祈りの答えなのです。マタイ 6 : 9-10 に「:9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。』」とありますが、天がこの地上に来る、天と地が一つになるということです。「義」と「平和」、そして、変わることはない「愛」がキリストの栄光とともに来ると言います。そして、この地上のすべてを新しくされると言うのです。これは「御霊による実」のことです。まさに、ここにあるのはキリストが帰って来られる将来のすばらしい栄光の日のことです。そして、私たちはその後、新天新地へと招かれていきます。

しかし、同時に、今日この日についても約束があります。イエスは「わたしの教会を建てます。」(マタイ 16 : 18) と約束を与えました。ヨハネ 15 : 4-5 には枝と幹のことが書かれています。「:4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」と。キリストにつながっているなら、すなわち、私たちがキリストの安息を得ているなら、私たちは多くの実を結ぶということです。

関連のみことば＝

イザヤ 45 : 8 : 「天よ。上から、したたらせよ。雲よ。正義を降らせよ。地よ。開いて救いを実らせよ。正義も共に芽ばえさせよ。わたしは【主】、わたしがこれを創造した。」

12節の関連のみことば＝Ⅱ歴代誌 7 : 14、ヘブル 4 : 1、9-11、ヘブル 12 : 11、

ヤコブ 3 : 18、ピリピ 1 : 11、ルカ 2 : 10、黙示録 22 : 2

13節の関連のみことば＝マタイ 6 : 33、マタイ 13 : 43、ローマ 14 : 17、

I ヨハネ 2 : 5-6、エペソ 5 : 2

皆さんへの宿題になりますが、教会の実について教えているヨハネの福音書の箇所、個人的なことではなく教会として実を实らせることが記されています。そのことを調べていただきたいと思います。終わりの日には収穫のときが来ると言います。黙示録 14 : 15 に「すると、もうひとりの御使いが聖所から出て来て、雲に乗っておられる方に向かって大声で叫んだ。「かまを入れて刈り取ってください。地の穀物は実ったので、取り入れる時が来ましたから。」と記されています。この地上に福音が伝わることによって、そこから信じる者たちが収穫されていくのです。それがグランドラピッツであろうと大阪であろうと、まさに、収穫のためにともに祈り合うことです。

主が私たちの祈りを聞いてくださるように、そして、その平和を私たちに与えてくださるように、アーメン。